



夢・挑戦・感動を大切に教育

# 霞西中だより

第17号

令和3年3月26日発行 校長 堤 貴幸

〈学校教育目標〉  
心身ともに健康で  
自ら行動する生徒の育成

〈目指す生徒像〉  
○夢を持ち、自ら学ぶ生徒(自主)  
○心豊かで、思いやりのある生徒(敬愛)  
○心身ともに健康な生徒(錬磨)

## 一年間のご支援・ご協力に感謝申し上げます

令和2年度の教育活動が終わります。この一年間、保護者並びに地域の皆様方には、本校の教育活動に対しまして、様々な形でご支援・ご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

今年度を振り返ってみますと、とにかく新型コロナウイルスに振り回され放しの一年間でした。しかし、生徒達は様々な制約のある中でも、明るく元気にやるべきことを確実に行き、着実に成長することができました。

4月からの学校生活がどのようになっていくか、先が見通せませんが、生徒の学びを保障し、目指す学校像のとおり「生徒が生き生きと活動し、希望の登校・満足な下校ができる学校」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

## 防災教育の充実を目指して

前号の「霞西中だより」にも掲載しましたが、本校は昨年度より防災教育に重点を置いて教育活動に取り組んでおります。その一環として、教師の危機管理意識と災害時の対応力を高めるための研修を慶應義塾大学准教授の大木聖子先生を指導者に招聘して実施しました。内容は、大地震発災後に教職員はどのように動き、対応をすればよいのかをシミュレーションする研修でした。研修当日、毎日新聞社編集委員の永山悦子氏が視察をされ、3月15日の夕刊のコラム欄にその研修について掲載をしてくださりました。その新聞コラムの紙面をそのままここに掲載してまいりますと著作権の問題が生じてしまうため、永山氏がそのコラム原稿をわざわざ送ってくださったので紹介します。

### 「防災訓練の本気度」

小学生のころ、防災訓練で「地震が起きました」という放送に合わせて机の下に潜りながら、「早く終わればいいのに」と考えたことを思い出す。防災訓練なんて、そんなものだと思っていた。

今月はじめ、埼玉県川越市の霞ヶ関西中で実施された教員向け机上防災訓練を見学した。平日の午前8時5分に首都直下地震が起きたという設定。部活動の朝練が終わり、登校中やまだ家にいる生徒も多い時間帯。生徒の安否確認が難しいタイミングだ。

訓練を計画したのは、各地の防災教育を支援する地震学者の大木聖子(さとこ)・慶応大准教授。大木ゼミの学生が、先生たちにカードを配っていく。そこには「体育館の天井が落下」「1年の生徒が過呼吸に」「3年の生徒が泣いている小学生を連れてきた」「通学路の橋が落ちたと連絡」など不測の事態が書かれ、それらに対処するのだ。

驚いたのは、訓練が進むにつれて先生たちの表情が一変したこと。「階段で出血した生徒の対応をして」「保健室はもういっぱいです」「放送が使えないから、各階の様子を見てきてください」「まずだれが学校にいて、だれがいないか確認しよう」「トイレが流れない? どうしたらいいんだ!」

中には、連絡のため小走りになる先生も。提示された事態はすべて、過去の地震や災害で起きたことだという。「事実」には「本気」を引き出す力があるよう。さらに、近所の人々が次々と避難してきたというあたりで訓練終了。堤貴幸校長は「生徒がいて、本当に泣き出したり血を流したりしていたら、どうなっただろうと思う。これまで気付いていなかった多くの課題が分かった」と話した。

この気付きは訓練のたまものだろう。ただし、今回の訓練は地震発生から約40分間が対象。現実には、それから長期にわたる災害対応が待ち受ける。大木さんの心配もそこにある。「避難所の運営を含め、学校や行政だけでは手が足りない。地域との連携が欠かせない」

東日本大震災から10年を過ぎ、さまざまな風化が心配される。震災で多くの犠牲を出した宮城県石巻市立大川小を巡る裁判で、学校の事前対策の不備が指摘されたように、事前の心構えの有無は「本番」で大きな違いを生む。学校、組織、地域が自ら「本気になる訓練」を検討する価値は大いにある。このような「自助」は歓迎だ。(オピニオングループ)

出典：3月15日 毎日新聞夕刊

「コラム『見上げてごらん』」 永山悦子

## 令和3年度4月行事予定

行事	部活動		下校
	朝	午後	
1 木			
2 金			
3 土			
4 日			
5 月			
6 火			
7 水			
8 木			
9 金			
10 土			
11 日			
12 月			
13 火			
14 水			
15 木			
16 金			
17 土			
18 日			
19 月			
20 火			
21 水			
22 木			
23 金			
24 土			
25 日			
26 月			
27 火			
28 水			
29 木			
30 金			

※今後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、変更になることもございます。

## おめでとうございます

☆埼玉県児童生徒表彰 3年 ○○○○

☆埼玉県産業教育振興賞 3年 ○○○○

☆埼玉県体育表彰 3年 ○○○○、○○○○

☆川越市体育表彰 3年 ○○○○、○○○○

☆小江戸読書名人賞

3年 ○○○○

2年 ○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○

1年 ○○○○、○○○○

### コロナ禍でも感動の卒業式 ～思いを込めた「卒業生のことば」～

3月13日(土)、あいにくの雨天の中、第38回卒業式を挙行了しました。新型コロナウイルスの影響で、1・2年生の後輩達は同席できず、保護者1名と教職員、そしてご来賓の市教育委員会職員、PTA会長で98名の卒業生を祝福しました。卒業生達は4月から、それぞれ自分が選択した道を歩み始めます。どんな時にも、夢を持ち、思いやりの心を忘れずにそれぞれの道で活躍してくれることを霞ヶ関西中学校教職員一同願っています。(式辞で、どんな時にも「夢を持ち続けること」「思いやりの心を忘れないこと」を卒業生に伝えました。)

日々、景色が春の色に染まっていく季節になりました。僕たち98名は今日、この霞ヶ関西中学校を卒業します。

3年前の4月、僕たちは少しの不安と大きな期待を胸に、この霞ヶ関西中学校に入学しました。部活動や定期テストなど、小学校との違いにとまどっていた僕たちにとって大きかったのは、先輩方の存在でした。先輩方は僕たちを常に導いてくださり、先輩方は僕たちにとって、まさしく憧れでした。

中学校生活に少しずつ慣れていった7月に、林間学校がありました。中学校に入り初めての宿泊行事。午前中様々な洞窟を回り、くたくたになった僕たちを待っていたのはカレー作りでした。火を起こす為に友達と協力をして目が痛くなりながら一生懸命うちわをふり続けました。できたカレーは少しこげていましたが、とてもおいしく、僕は料理をすることの大変さと楽しさ実感しました。夜、怖くなったために6人で3つの布団に入ったことや、ほうとうを食べたこと、そのどれもが仲間達のことを知るきっかけになり、今も僕の最高の思い出として残っています。この行事があったから、学年の団結力が高まり、その後の学校生活につながっていきました。

2年生となりました。2年生では憧れだった先輩方が部活動、委員会などで引退し、僕たちに後輩の手本となり、引っ張っていく責任が生じました。先輩として、中堅学年としてその責任を背負い、後輩と接する中で、僕たちはまた成長することができたと思います。2年生には修学旅行がありました。普段教科書でしか見られない多くの建造物には、それぞれに大きな魅力があり、つつい長居してしまっ、バスに集合時間ギリギリに駆け込むこともしばしばありました。友達と、先生が来るか気にしながら語り合った夜や、旅館でおもてなしの心に触れながら過ごした時間。3日間はあっという間に過ぎていきました。

そして、3年生。僕たちの3年生は休校から始まりました。家で何もすることがなく過ごす時間。失って初めて気付くことがあるとよく言いますが、本当に友達と過ごせる時間の大切さを、あの時実感しました。そして、6月から学校が再開となりました。僕たちの最後の体育祭と合唱コンクールは無事開催することができました。どちらも休み時間まで使って各クラス練習をし、最後にはどのクラスも全力を尽くして行うことができたと思

います。3年生は大きなイベントとして受験があります。コロナ禍の受験は例年とは大きく違った動きになり、戸惑いや不安もありました。しかし、そんな中でも僕たちは互いに協力し合い、教え合い、高め合ってきました。もちろん、受験には合格、不合格という結果はありますが、僕たちがそれに向けて努力をした経験は、決して無駄になることはないと思います。

あっという間に過ぎていった3年間。その3年間でいった体験や学んだこと、その思い出はこれからの僕たちの心の支えとなり、一歩を踏み出す勇気を与えてくれることでしょう。

先生方、本当に3年間ありがとうございました。先生方からは非常にたくさんのお話を学びました。また、僕たちが安心して学校生活を行えるよう、様々なサポートをしていただきました。そのお陰で僕たちは学生として、人間として大きく成長できたと思います。

そして、15年間支えてくれたお父さん、お母さん。毎日、身の回りの世話をしてくれたり、勉強をしている時にお菓子を持ってきてくれたお母さん。家族の生活を支え、時には相談に乗ってくれたお父さん。二人の存在は僕にとって一番の心の支えでした。ありがとう、そして、あと少しよろしくお願いします。

来賓の皆様、保護者の皆様、今日は僕たちのためにご出席いただきありがとうございました。ある偉人の名言に「人生とは、自分を見つけることではない。人生とは、自分を創りあげていくものだ」というのがあります。僕たちは、この学校で自分を創るための土台を築いてきました。これから僕たちはそれぞれの進路へ進み、人生をかけて自分を創っていきます。もちろん、不安もあります。ですが、もう飛び立つ時は来しました。僕たちは今、喜びと誇りを胸に、未来という大空へ飛び立ちます。そして、未来へと進み続けていきます。

令和3年3月13日

卒業生代表 ○○○○